

## 東神戸港への入港船のシップウォッキング

2022.8.13 事務局長 池田良穂

阪九フェリーによって開設された長距離フェリーは、小倉港と東神戸の間を結び、その後、東神戸港には東洋最大のフェリー基地が整備されました。しかし、フェリーの大型化に対応するため1988年には六甲アイランドに、さらに1999年には三宮に近い新港第3突堤にも新しいフェリー埠頭ができました。

このうち六甲アイランドのフェリー埠頭からは、ダイヤモンドフェリーの流れを継ぐフェリーさんふらわあの大分航路船と、阪九フェリーの新門司航路船が、それぞれ毎日1便就航しています。何度も乗船しているのですが、よい撮影ポイントがわからず奇麗な写真が撮れずにいました。そこで地図を広げて、入港するフェリーの姿が見られる場所を探したところ、潮見屋ビーチの存在を知りました。近くに駐車場もあり、早朝に入港するフェリーの姿が順光で撮影できそうです。土曜と日曜日には8時～8時半に着岸ですので、光線もよさそう。8月13日に撮影に出かけました。



最初に姿を現したのは台湾の陽明海運の12000個積みのコンテナ船「YM Truth」でした。アジア～北米航路に就航しており、姉妹船が10隻もいるようです。1万TEU以上のコンテナ船の満載時の姿を実際に見るのは初めてで興奮しました。同船は六甲アイランドの南側のコンテナ埠頭に着岸しました。



続いて「さんふらわあぱーる」が入港してきました。何度も乗船した船ですが、走る姿を見るのは初めてでした。



朝8時頃、阪九フェリーの「やまと」が新門司から到着しました。手前のビーチは遊泳禁止で、犬を連れて散歩をする人の姿がたくさん見えました。このビーチの近くには、一戸立ちの住宅地が開発されていました。